

FDK

FDK株式会社

第93期

中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで



進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第93期中間期（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期は、前期に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）への感染拡大防止策を柔軟に実施するとともに、電子部品や樹脂製品を中心とした部品調達難、コンテナ不足や港湾混雑による物流混雑乱下のなか、リチウム電池生産ラインの増設をはじめとした需要増への対応に加え、放電性能を向上させた車載アクセサリ市場向けニッケル水素電池の量産出荷や長期保存が可能なスマートメータ・セキュリティ機器用途向け高容量円筒形酸化マンガンリチウム一次電池ならびに交通インフラ市場向けニッケル水素バッテリーシステムの販売を開始いたしました。

当中間期の経営成績につきましては、事業全体では前期に実施したアルカリ乾電池の海外製造子会社の株式譲渡による売上減の影響があった一方で、ニッケル水素電池とリチウム電池、設備関連ビジネスならびに、電子事業におけるモビリティ用途向けの各種モジュールが増加したことにより、売上高は前年同期に比べ5億94百万円増の305億70百万円となりました。営業利益は全体の売上増加ならびに為替の好転により前年同期に比べ4億28百万円増の13億92百万円となりました。経常利益は前年同期に比べ5億92百万円増の13億2百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は、関係会社清算益4億59百万円、関係会社株式売却益13百万円の特別利益を計上したことにより、前年同期に比べ9億39百万円増の14億41百万円となりました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

下期以降の見通しにつきましては、原材料価格の高騰や部品調達難などの厳しい事業環境が一層強まることを予見していることから、通期連結業績予想を2021年4月27日発表の公表値に据え置いております。一方で、このような事業環境下におきましても、中期事業計画「R1」の達成に向け、現行ビジネスと利益ある成長の確立を目指し、電池事業においては事業全体で様々なリソースの最適化を図ることにより新たな価値の創出を行なっていくとともに、電子事業においてはパートナーとの連携強化および新規開拓を推し進めることで、利益の拡大を図り、事業価値向上に繋げてまいります。

新事業のSMD対応小型全固体電池につきましては、電子事業の技術の活用やパートナーとの連携強化による製品力の強化を加速させるとともに、水素/空気二次電池やニッケル亜鉛電池につきましても、実用化に向けた開発のさらなる加速とビジネスプランの策定を進めてまいります。また、「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、全てのステークホルダーの方に満足いただく「And Game」の実現のため、従業員各自が自律的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成を加速させ、企業価値の向上に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2021年12月



代表取締役社長
長野 良

Profile プロフィール

1961年 9月7日生まれ
1985年 4月 富士通㈱入社
2019年 4月 当社執行役員常務
2019年 6月 当社代表取締役社長

連結決算ハイライト

売上高



営業利益



経常利益又は経常損失(△)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)



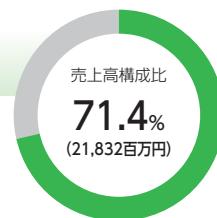
事業別の概況

電池事業

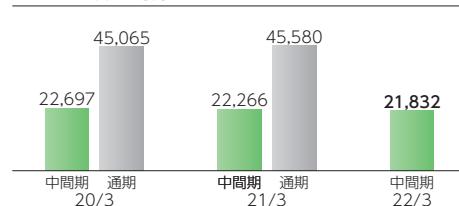
電池事業はニッケル水素電池とリチウム電池、設備関連ビジネスが増加したものの、アルカリ乾電池が減少したことにより、前年同期を下回りました。

製品別につきましては、ニッケル水素電池は、海外の市販用途および工業用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。アルカリ乾電池は、前期に実施した海外製造子会社株式譲渡による売上減により、前年同期を下回りました。リチウム電池は、国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ4億34百万円減の218億32百万円となりました。



売上高 単位:百万円

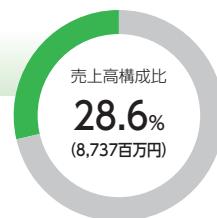


電子事業

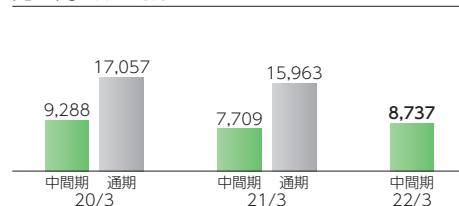
電子事業はトナーが減少したものの、スイッチング電源と各種モジュールが増加したことにより、前年同期を上回りました。

製品別につきましては、スイッチング電源は、半導体装置用途向けが増加したことにより、前年同期を上回りました。トナーは、在庫調整などにより、前年同期を下回りました。各種モジュールは、液晶ディスプレイ用途向けで減少しましたが、モビリティ用途向けで増加したことにより、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ10億28百万円増の87億37百万円となりました。



売上高 単位:百万円



FUJITSUアルカリ乾電池



FUJITSU充電式電池



ニッケル水素電池

リチウム電池



移動体検知モジュール



産業機器用途向け電源

トピックス

ニッケル水素電池 累計グローバル出荷20億個達成

当社は、乾電池互換の市販用途・家電用途向け組込製品や、車載、電源バックアップ・セキュリティ用途等、幅広い用途でお使いいただいている当社製ニッケル水素電池の累計出荷数20億個を2021年6月に達成いたしました。

当社のニッケル水素電池は、当社独自の技術で低温から高温まで幅広い温度範囲で使用が可能で、さまざまなお客様のニーズにお応えする特性と品質、充実したラインアップが多くのお客様に支持され、2010年1月の出荷開始以来、2015年12月に10億個に達し、2021年6月に累計グローバル出荷数20億個を達成することができました。

あらゆる用途において安心・安全にお使いいただけるよう国内生産にこだわり、精密さや丁寧さを誇る日本のものづくりによって高品質を表現し、SDGsの観点からリサイクル性が高い充電式の電池として欧米でも注目が高まっております。2026年までに累計グローバル出荷数30億個を目指してまいります。



当社製ニッケル水素電池

車載アクセサリ市場向けニッケル水素電池 「HR-AAUTEW」を開発

当社は、ニッケル水素電池「HR-AAUTEW」を開発し、製品ラインアップに新たに追加、2021年7月から量産出荷を開始いたしました。

多様化する車載アクセサリ機器の電源バックアップや主電源用途において、安全でより幅広い温度範囲で使用可能な電池の必要性が高まっているなか、既存のニッケル水素電池「HR-AAULT」をベースに使用材料や構造などを徹底的に見直ししました。その結果、既存製品においては使用温度範囲が-20℃～+85℃でしたが-40℃～+85℃へ拡大し、低温環境下での放電性能が向上するとともに、-40℃の環境下においても定格容量である1Aの放電が可能となりました。

また、本製品は、RoHS指令・電池指令（2006/66/EC）などの環境法令に準拠しております。



ニッケル水素電池「HR-AAUTEW」

4月

5月

6月

7月

8月

9月

高容量円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池 「CR2/3 8LHT」の販売を開始

当社は、高容量円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR2/3 8LHT」をリチウム電池の製品ラインアップに新たに追加、2021年9月から販売を開始いたしました。

当社は、すでにスマートメータやセキュリティ機器用途向けに、自己放電率が低く長期保存が可能な高容量円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池の「CR8LHT」（2,850mAh）を製品化し販売しておりますが、比較的消費電力が小さい機器に適した電池をご提供するために、「CR8LHT」に比べて11.5mm短い「CR2/3 8LHT」（1,800mAh）を開発しました。

本製品により機器の小型化が可能になり、IoT社会の利便性を高める一助となる上、耐熱性に優れた特殊樹脂製ガスケットを採用することにより、屋内だけでなく屋外に設置される機器でも長期間ご使用いただけます。

また、本製品は、米国の安全規格であるUL規格の認定を受けております。



高容量円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池

拡大する交通インフラ市場向けにDC12V 10Wh標準 バッテリーシステム「BBUS-100012-01」を販売開始

当社は、2017年7月に発売したDC12V 10Wh標準バッテリーシステム「BBUS-100012-01」を、新たにWi-Fiルーター機器の電源バックアップ用途向けに2021年9月から販売を開始いたしました。

本製品は、従来、セキュリティの拡充に伴ない監視カメラ機器の停電時のバックアップ用途に採用されておりましたが、近年の交通インフラ市場でのITサービスの拡充に伴ない、設置が増加しているWi-Fiルーター機器をバックアップするニーズが高まっております。

本製品は、水系の電解液を使用し、発火・発煙のリスクが少ない安心・安全なニッケル水素電池と充放電・保護回路を3.5インチベイサイズの筐体に収めたコンパクトな汎用DC-UPSであることから、狭く限られたスペースで設置可能といった特長が評価されました。本製品のさらなる数量と販路の拡大を目指してまいります。



DC12V 10Wh標準バッテリーシステム
「BBUS-100012-01」

■ 連結財務の概況

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (2021年9月30日現在)	前期末 (2021年3月31日現在)
資産の部		
I 流動資産 1	29,547	32,344
II 固定資産	15,785	15,719
（有形固定資産）	14,831	14,776
（無形固定資産）	487	434
（投資その他の資産）	465	509
資産合計	45,332	48,064
負債の部		
I 流動負債 2	29,955	33,779
II 固定負債	3,065	3,396
負債合計	33,021	37,175
純資産の部		
I 株主資本	13,152	11,750
資本金	31,709	31,709
資本剰余金	26,225	26,257
利益剰余金	△44,731	△46,166
自己株式	△50	△49
II その他の包括利益累計額	△847	△868
その他有価証券評価差額金	41	38
為替換算調整勘定	774	885
退職給付に係る調整累計額	△1,662	△1,792
III 非支配株主持分	5	5
純資産合計	12,311	10,888
負債純資産合計	45,332	48,064

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ27億96百万円（△8.6%）減の295億47百万円となりました。その主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産が4億59百万円、商品及び製品が3億63百万円、原材料及び貯蔵品が4億88百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が39億79百万円減少したことによるものです。

2 流動負債

流動負債は、前期末に比べ38億23百万円（△11.3%）減の299億55百万円となりました。その主な要因は、短期借入金が31億円、未払金が12億62百万円それぞれ減少したことによるものです。

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)
売上高	30,570	29,975
売上原価	24,455	24,246
売上総利益	6,114	5,728
販売費及び一般管理費	4,721	4,765
営業利益	1,392	963
営業外収益	99	145
営業外費用	189	399
経常利益	1,302	709
特別利益	472	—
特別損失	—	4
税金等調整前中間純利益	1,774	705
法人税、住民税及び事業税	287	225
法人税等調整額	45	△22
中間純利益	1,441	502
非支配株主に帰属する 中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する 中間純利益 3	1,441	502

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー 4	1,735	365
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,650	△917
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,135	△660
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	71	19
V 現金及び現金同等物の増減額	△3,979	△1,193
VI 現金及び現金同等物の期首残高	7,001	9,063
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	3,022	7,869

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

3 親会社株主に帰属する中間純利益

電池事業はニッケル水素電池とリチウム電池、電子事業は各種モジュールの売上増による増益に加え、関係会社清算益4億59百万円、関係会社株式売却益13百万円の特別利益を計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ9億39百万円増の14億41百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の増加9億99百万円、売上債権の増加3億13百万円などによる資金の減少はありましたが、減価償却費の計上11億75百万円や税金等調整前中間純利益の計上17億74百万円などにより17億35百万円の資金増加となりました。

FDKグループの概要

2021年9月30日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [] 内は、主要生産品目です。

● 当 社

本 社

◆東京都港区港南一丁目6番41号

工 場

A湖西工場 [トナー]

B高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

C鳥取工場 [リチウム電池]

D鷺津工場 [アルカリ乾電池、リチウム電池]

営 業 所

①札幌営業所

②仙台営業所

③首都圏営業所

④名古屋営業所

⑤大阪営業所

⑥広島営業所

⑦福岡営業所

● 当社グループ

国内生産会社

1 (株) FDKエンジニアリング [各種製造設備]

海外生産会社

1 XIAMEN FDK CORPORATION

中国・廈門 [スイッチング電源、各種モジュール、ニッケル水素電池・
リチウム電池のパック電池]

2 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

台湾・桃園 [各種モジュール]

海外販売会社

FDK AMERICA, INC.

①米国・サニーベール

②米国・ダラス

FDK SINGAPORE PTE. LTD.

③シンガポール

FDK HONG KONG LTD.

④中国・香港

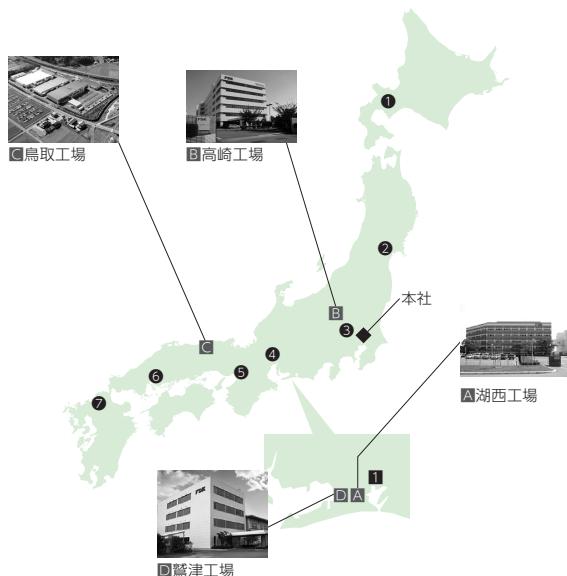
((ほか、連結子会社2社))

FDK ELECTRONICS GMBH

⑤ドイツ・ミュンヘン

FDK (THAILAND) CO., LTD.

⑥タイ・バンコク



1 XIAMEN FDK CORPORATION



会社および株式の概要 2021年9月30日現在

■商号 FDK株式会社

(英文社名：FDK CORPORATION)

■設立 1950年(昭和25年)2月7日

■資本金 31,709,007,153円

■従業員数 1,661名 [FDKグループ：2,465名]

■主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備

電子事業 スwitching電源、トナー、各種モジュール

■役員

●取締役

地位	氏名
代表取締役社長	長野 良
取締役	平野 芳晴
取締役	村嶋 純一
取締役	石原 淳児
監査等委員である取締役	木下 高志
監査等委員である取締役	藤原 正洋
監査等委員である取締役	神谷 和彦

(注) 1. 取締役村嶋純一、監査等委員である取締役藤原正洋および神谷和彦の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査等委員である取締役木下高志氏は、常勤監査等委員である取締役であります。

■発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普通株式	51,000,000株

■発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数(前期末比)
普通株式	34,536,302株	18,434名(188名減)

■大株主

株主名	当社への出資状況		
	持株数(千株)	持株比率(%)	
富士通株式会社	普通株式	20,295	58.82
富士電機株式会社	普通株式	339	0.98
楽天証券株式会社	普通株式	202	0.59
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	普通株式	183	0.53
株式会社DMM. com証券	普通株式	149	0.43
株式会社SBI証券	普通株式	142	0.41
FDK取引先持株会	普通株式	133	0.39
松井証券株式会社	普通株式	128	0.37
田中章吾	普通株式	125	0.36
JPMBL RE CREDIT SUISSE AG - DU BLIN BRANCH COLLEQUITY	普通株式	123	0.36

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨ててにより表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(29,477株)を控除して計算しております。

■所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(電話照会先)	電話 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	公告方法	電子公告
議決権の基準日	毎年3月31日		当社は公告を下記ホームページに掲載しております。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式が「特別口座」に眠っていませんか？

1. 「特別口座」について

2009年1月に法令により株券の電子化が実施されましたが、その際、証券会社の口座に預けられていなかった当社株式については、現在、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」で管理されています。制度上、「特別口座」に管理されているままでは、証券市場で株式を売買することができない等の制約がございます。ご所有の株式が「特別口座」で管理されている株主様におかれましては、証券口座への振替をお願いいたします。

お心当たりございませんか？

- お手元に株券がある
(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当たり
ございましたら

株式が
「特別口座」で
管理されている
可能性が
ございます

◆ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明な株主様は、三菱UFJ信託銀行証券代行部 ☎0120-232-711) までお問い合わせください。
(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9：00～17：00)

2. 「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

三菱UFJ信託銀行に振替用の請求用紙 「口座振替申請書」を請求する。

請求用紙に必要事項を記入・押印して 三菱UFJ信託銀行に送付する。

これで手続きは完了です。
証券会社の口座に株式が振替われます。

単元未満株式の買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式（1～99株）については、市場で売買することができませんが、当社に対して買取請求を行なうことができます。

● 買取制度の例（60株ご所有の場合）

現在ご所有の単元未満株式

60株
(単元未満株式)

買取請求制度

当社株式60株を市場価格で当社へ売却し、
代金を受領する。

60株
(単元未満株式)

¥ ¥ ¥

当社ホームページ

<https://www.fdk.co.jp/>

当社IR情報

<https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>

